

令和3年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立海南高等学校 大成校舎

学校長名：川久保 尚志

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心、進路希望に応じた特色ある教育課程の編成や授業を展開するとともに地域共育コミュニティ等を通じて地域に根ざした学校づくりを目指す。 知・徳・体の調和がとれ、社会や地域の期待に応えられる自主的・主体的で創造性豊かな生徒を育てる。
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	<ol style="list-style-type: none"> 規律ある生活態度の育成 基礎力の向上とキャリア教育の推進 相互の人権尊重と特別支援教育の推進 特別活動の活性化と地域に信頼される学校づくり

中期的な 目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習の到達状況を見極め、それぞれに目標を持たせ、個々の生徒に応じた主体的・対話的な学習活動により幅広い学力を習得させる。 地域の人材、自然資源を生かした特色ある授業、特別活動を展開し、地域や社会に貢献できる人材を育てる。 入学後早期から卒業後の進路実現を目指し、系統だったキャリア教育に取り組み、人間力を身につけた人材を育成する。
学校評価の結果と改善 方策の公表 の方法	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の学校評価アンケートや外部評価について、ホームページ等で公表する。

達成 度	A	十分に達成した。 (80%以上)
	B	概ね達成した。 (60%以上)
	C	あまり十分でない。 (40%以上)
	D	不十分である。 (40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重 点 目 標					年 度 評 価 (3 月 2 5 日 現 在)		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
1	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業への取り組み態度はおおむね良好であるが、消極的な姿勢の生徒も見られる。 生徒理解に努め、さらに細やかな指導と授業の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が積極的に授業研究を進め、生徒が主体的に学べる教材、授業方法を工夫し、基礎学力の向上を目指した取組を計画的に行えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確立 教材の工夫や研究 個別指導や補習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は授業に集中できているか。 教材の工夫や研究に取り組んだか。 個別指導や補習を行ったか。 	<p>様々な学習課題を抱える生徒一人ひとりに対し、丁寧な指導を学校全体で心がけた。しかしながら、学習活動に積極的に取り組めない生徒の対応に苦慮する場面もあった。</p>	B	<p>次年度も引き続き個に応じた指導を心がけたい。また、1年生で習熟度授業を行う英語、国語、数学については、学び直しも含めて、各生徒の到達目標の達成に向けた効果的な指導を目指したい。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望は、進学希望が約4割、就職希望が約6割である。進路実現のため、入学から卒業まで一貫したキャリア教育が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力や適性を理解し、進路意識を高める指導が行えたか。 家庭と連携を取りながら丁寧な指導をしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談等を通し、早期に進路目標を持たせる。 外部講師を活用した講演会等の実施や就職指導員と連携した職場開拓を通し就職内定率100%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職や進学に向け、有効な補習を実施できたか。 担任と進路指導部が連携した取組が進められたか。 ガイダンス等で生徒への意識付けができたか。 希望する職種、職場の開拓ができたか。 	<p>就職希望生徒は、3月8日までに縁故就職予定の1名を除いて全員が就職先を確定できた。進学希望生徒は、全員が1月末までに進先先を確定できた。就職・進学ともコロナ禍の影響で、ガイダンスは十分には行えなかった。</p>	B	<p>次年度は可能であるならば、年度当初に卒業生の就職先を訪問し、状況の確認と生徒のアフターフォローを行いたい。また1学年からの系統だった進路指導の確立を更に進めていきたい。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣の確立を目指す指導を徹底する。 様々な問題を抱える生徒に適切な対応を行う体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導上の重点目標を全教職員で共通理解した取組ができているか。 いじめ未然防止のための取組に積極的に取り組めたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の諸問題を教職員が共有する機会を定期的に持ち、組織的な指導を行う。 保護者との連携を密にしSC・SSWや外部機関と連携し迅速な対応を行う。 いじめの未然防止のため生徒の日々の動向を全教職員で注視する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で意思疎通を図りながら適切な指導が行えたか。 生徒の悩みや問題を把握し、保護者と連携し、適切な指導を行えたか。 いじめアンケートの実施と適切で迅速な対応を行う組織、環境の整備ができているか。 	<p>教育相談担当の教員を中心に生徒・保護者の抱える悩みや諸問題に迅速に、そして丁寧に対応する事ができた。問題を抱える生徒の保護者との連携も、クラス担任を中心に適切に行えた。</p>	B	<p>次年度は教育相談の体制をより充実させたい。またSSWやSCとの連携をより密なものにして、個々の生徒の問題の早期発見、早期対応をより適切に行えるようにしていきたい。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会、HR活動など生徒に自主活動を促し、積極的に行動できる生徒の育成に取り組む。 地域との連携・交流を通し、自主性の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主的で活発なHR活動や生徒会活動が展開されたか。 学校行事・ボランティア活動等において、地域と連携した活動ができたか。 クラブ活動に参加する生徒は増えているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的にHR活動や生徒会専門委員会活動ができるように指導する。 地元子ども園や小学校、中学校との交流等の場を提案し、日常的に地域に貢献できる環境を作る。 部活動への積極的な参加を働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会が自主的に活動する機会が増えているか。 地域と連携した活動ができたか。またその取組は生徒の自主性の育成につながったか。 部活動は活発に行われたか。 	<p>コロナ禍の影響により、地域でのボランティア活動は、ほとんど実施できなかった。しかし文化祭などでの、生徒の自主的な活動は制限のある中、工夫を凝らして行えた。部活動は生徒減の影響が大きく、活発に活動できたとは言えない。</p>	B	<p>次年度は、この2年間ほとんど行えていない地域との連携活動を、より多くの生徒が関わりを持てるよう、できるだけ生徒主導で行わせていきたい。部活動については、参加する生徒を少しでも増やしていきたい。</p>

学校関係者評価
令和4年 2月 24日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>地域に開かれた学校が求められる中、地域の行事等で、多くの生徒が関わっている姿は地域からも好評である。今年度も昨年度同様に、コロナ禍のために従来の地域連携に関わる教育活動が困難であったが、前例にとらわれず小規模校の良さを生かして柔軟な対応が必要であろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響で地域連携や活動が困難な時期ですが、大成校舎の存在意義や少人数校の具体的なメリットをよりアピールしてほしいとの意見をいただいた。 特別活動及び地域活動をより積極的に取り組んでほしい。また、地域が求める若い力を学校として、地域と連携しながら探してほしいとの意見をいただいた。 学校は生徒の成長・発達の場合、多様な価値観を育む場であるとするれば、地道に子どもにとって最善となる教育活動を行うことが大切でしょうとの意見をいただいた。